

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400624
法人名	特定非営利活動法人 長寿会
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲
訪問調査日	平成 20 年 3 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日平成20年 4月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372400624
法人名	特定非営利活動法人 長寿会
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲
所在地	熊本県玉名郡長洲町折崎633-5 (電話)0968-78-8880

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5千代田レジデンス106
訪問調査日	平成20年3月24日

## 【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	5 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 8.6 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,880 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 60,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 850 円		

### (4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	淡河黒田医院、ふじさわ脳神経外科クリニック、田宮二郎内科、なかむら歯科医院
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ひとりの人をトータルに、サービスを用いて魂でケアする」との想いを実践するため、生活の環境整備と、質の向上のため自己研鑽に努めている。地域との関わりを心がけ、法人として地域に根付き、地域の力になれる事業所を目指している。2ユニットが各階に入った2階建ての建物は、安心感のあるがっしりとした外観に、中庭を囲む真っ赤なベランダの手すりが明るさと、開放感を感じさせ、干された洗濯物から安全で安心な生活の営みが垣間見られるものだった。2階のベランダでは、入居者同士が助け合いながら、布団を干す光景が見られた。また、気の合う者同士と一緒に入浴したり、「ここでテレビば観りたい」との言葉かけや、茶碗洗いで役割分担して行い、片づけが終わったキッチンでは仲良くコーヒーを楽しむ姿が見られ、入居者同士の仲の良さが印象的であった。法人の地域に密着した多様なサービス展開を活用し、多機能制のある事業所としての役割を果たしている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ほとんど指摘事項のない前回の評価であったが、結果に甘んじることなく、外部の目が入る良い機会であり、自分を振り返るチャンスと捉えている。「ライバルは自分」とであるとの観点で、質の向上のために平成20年度から複数の事業所を有する法人内で内部評価を取り入れる予定であり、課題の掘り起こしと改善への取り組みに意欲的である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は勉強会で評価の意義を説明し、職員に聴き取りを行い、職員の意見が反映するよう取り組んでいる。自分たちが高まるための時間と認識し、普段の姿で受け入れるよう努めている。気づきに対しては、真摯に受け止め、全員で改善に取り組む意識があり、サービスの質の向上を図りたいという姿勢が感じられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、町役場職員・区長・民生委員・老人会会長・家族会代表・入居者が参加し、2ヶ月に1度開催している。ホームでの生活状況や行事予定を報告し、協力依頼を行うなど有効に機能している。認知症への理解や、中庭の活用、地域との新たな交流等の企画を共に考える場となっている。次年度からは地域包括センター担当者にもメンバーに参加されるよう働きかけを行い、運営推進会議の有意義な活用への意欲がみられる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>近隣に住まう家族が多く、訪問は頻回であり、家族参加の行事も工夫され、職員と接する機会も多いため信頼関係は構築されている。家族の気持ちや状況を職員が読み取ることで、必要なことをタイムリーに伝える努力が家族の安心に繋がっている。具体的な意向を引き出すテクニックの修得を心掛けており、家族会を通じて匿名で意見発信が可能な体制も調っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流に努めた成果で、住民の理解も広がり、ボイラーをこまめに切るなど、隣接民家に対する雑音等の細やかな配慮もあり、地域に受け入れられている。隣接の法人事務所や有料老人ホーム、夜間待機者である元職員、馴染みの理髪店など、近隣に協力拠点があり、地域の中で安心して自分らしく生活することが実現されている。地域で支え合う関係作りへの意欲も高く、今後の地域での活躍に期待したい。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には「自己研鑽・ケアの向上・入居者の尊厳と権利の保証・住環境の整備・地域福祉の整備」が掲げられている。地域に根ざし、支え合う関係を構築していこうとする地域密着型サービスの役割を踏まえ、入居者の特性を尊重し、その人らしい生活を大切に支援する内容となっている。	○	現在の理念は「法人理念」と同一の内容で、今後ホーム独自の理念を作ることが考慮中であり、実現が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を唱和し、理念に基づいて、各自の「今日の目標」や考え方を話し合い、理念の理解と意識づけを図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わし、気軽にコミュニケーションを図るよう努めている。自治会に加入し、草取りやもち投げ等地域の行事に積極的に参加している。ミニ運動会やもちつきなど、ホームの行事にも近隣の参加を呼びかけ、地域との交流に努めている。住民の理解も広がっており、野菜を差し入れする人や、入居者の単独外出を見かけると連絡を取ってくれるなど、地域の支援も得られている。また、小学校区の子ども110番や中学校の実習受け入れなど、社会貢献にも積極的である。	○	グループホームの理解を深めることが役目との強い認識を持ち、地域と支え合う関係作りへの意欲が感じられる。既に信頼関係が構築されている民生委員や老人会と協働し、認知症の理解や具体的な接し方の講習会、グループホームをはじめ、法人が展開するデイサービス等の見学会を企画するなど、より一層、地域と法人を繋ぐ架け橋的役割を担うことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会で評価の意義を説明し、職員の理解を促し、職員に聴き取りながら自己評価を作成している。自分たちが高まることが重要と考え、評価を自己研鑽に努める指標とする心構えで臨んでいる。評価結果を、流れる毎日の中で気付かなかった指摘事項と真摯に受け止め、全員で改善に取り組む意識があり、サービスの質の向上を図りたいという姿勢が感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町役場職員・区長・民生委員・老人会会長・家族会代表・入居者が参加し、スライドや写真を用い、ホームの活動状況を分かりやすく説明したり、新たな企画を検討する機会となっている。座談会形式の会議で得られる忌憚のない意見やアドバイスは、日々のケアを見直すきっかけとなっており、サービス向上の取り組みに活用している。また、次年度からは地域包括センター担当者にも参加を働きかけており、運営推進会議の有意義な活用への意欲が伺われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に町役場福祉課長の参加があり、担当者とは電話連絡や職員が役場を訪問する等、情報交換等を行う関係が構築されている。地域へのサービス向上のために町役場当者とは更なる連携が必要と考えており、ホームへの来訪を働きかけ、実際の様子を見て・知ってもらい理解を深めてもらうことで、共に地域への啓発活動を広げていこうとする意欲が感じ取れた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問は頻回であり、訪問時に生活の様子や健康状態などを報告し、月1回の支払時にはカンファレンスや詳しい説明等が行われている。家族の気持ちや状況を職員が読み取ることで、必要なことをタイムリーに伝える心掛けがあり、家族の安心と信頼が図られている。心身の状態変化など緊急を要する場合は、電話連絡を行い、家族の理解と協力を得ている。年に1回実施される家族会総会や、定期的に発行される機関誌でも、ホームの活動状況の報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡の際、家族の意見を引き出すよう心がけており、何でも話せるよう信頼関係を築く努力が行われている。また、家族会代表に匿名で連絡できる仕組みを整えており、家族会からの要望・意見として発言できる体制となっている。苦情・要望には改善に向け迅速に対応する姿勢が見られる。	○	話しやすい雰囲気や、信頼関係作りと共に、無記名のアンケート調査等、更に家族が意見を表しやすい機会を設けることも検討されると良いと考える。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し、離職や人事異動はできるかぎり発生しない努力があり、この1年職員は定着している。法人の新事業の開設が控えており、人事異動が予想されるが、日頃から事業所間の交流を図り、法人内職員は入居者と広く馴染みをもち、異動への備えを行っている。新職員においては、入居者や家族に説明を行い、紹介や導入時のフォローに努め、利用者の不安や混乱を最小限に抑える方針である。		
5. 人材の育成と支援					
		○職員を育てる取り組み	内部研修ではケアカンファレンスや定期的勉強会を行		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>い、地域のグループホーム連絡会の研修等、外部研修にも積極的に参加を促すなど、学ぶ機会が多い。職員ごとに個人の年度目標を設定し、共有することで職員の質向上に向けた意欲的な取り組みを行なっている。職員は介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得に積極的であり、キャリアアップへの意欲が感じられる。資格取得のための学習過程で力が付き、職員間の相互協力にも繋がることに重きを置き、法人事務局を勉強の場に解放するなど、法人の協力体制を調べている。日々の業務の中では、言葉使いや態度など互いに気を配り、注意しあって自己成長を図っている。</p>	○	<p>年度初めに個人目標を設定し、年度末に管理者が評価を行っており、きめ細やかな配慮がなされているが、単年度で達成できなかった目標をスライドし、努力を重ねることができる形式の工夫があると、継続した目標達成の一助となるのではないかと思われた。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年6回実施される地域のグループホーム連絡会の活動に参加し、他のグループホームの職員等と交流が図られている。事例のアドバイスや悩み相談の交換等、活発に情報交換が行われ、相互にそれぞれのホームのサービス向上に活かしている。昨年は合同で「のど自慢大会」を開催する等、活気ある交流が行われている。今後は互いの施設での交換研修なども検討されており、視野の広い質の向上が期待される。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに数回のホーム見学や日帰り体験を勧め、家族と綿密な相談や本人へのアプローチを行い、入居者や職員との関係作りを実施している。入居に際しては、生活歴やライフスタイルについて聴き取り、これまでの生活や環境を継続できるよう配慮している。また、入居直後は、朝晩スタッフと1対1で散歩に出るなど個別に対応し、気持ちに添ったケアを行い、職員との信頼関係作りを努めている。家族には頻回に電話を掛けてもらうよう協力を頼む等、早く馴染んでもらう工夫が見られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しやらっきょう、干し柿作り、餅つき等、入居者の力が発揮できる場や、使い古しのタオルを雑巾に縫い直し再利用をするという提案を取り入れ、入居者に習いながら一緒に作るなど、共に支え合う関係が築かれている。掃除や洗濯物たたみ、訪問者へのお茶のサービスなどを意欲的に行う入居者もあり、職員が「ありがとう」と感謝の言葉を掛けると、笑顔を返す姿が見られた。一緒に思いを共感できることを目指し、入居者とゆっくり関わっていく姿勢が感じられた。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族とのコミュニケーションから入居者の生活歴や性格等を聞き取り、入居者の立場に立って、その思いに共感できるよう努力されている。言語での表現が困難な入居者は、表情やしぐさから思いを汲み取るよう努め、具体的な声掛けとその反応を個人記録に記載し、職員間で共有・検討・実践するなかで、より多く良い表情が出るよう、思いや意向に添ったケアを実施する姿勢がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当職員が決められており、担当職員が本人・家族、医師等から情報を収集し、複数の職員でアセスメントを実施している。その後ケアマネージャーが中心となり、全職員で検討し、本人・家族・職員・関係者の多様な角度から見た意見を取り入れ、介護計画作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は半年毎の定期的見直しの他、心身の状態に変化が見られた場合には、随時見直しが行われている。また、期間が限られた医療的対応が加わる場合は短期プランとしてすぐに反映されている。個人記録は入居者の言葉や行動をそのまま記録する指導があり、客観的記録をアセスメントに活用し、課題を見出す仕組みとなっている。入居者の生活を報告する中で、家族からより具体的な要望を引き出すテクニックを模索中であった。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	長期入院の場合は一旦退去の手続きが取られるが、退院の際は再入居が優先されている。ホームが満室で受け入れができない時は、同法人併設の有料老人ホームを活用する等、法人内の機能連携が図られている。また、入院中はホームの仲間を同行して見舞いに行く等、環境の変化による不安解消に配慮している。予備室もあり、ショートステイの希望にも対応可能で、在宅の認知症の高齢者支援も行っている。法人が行っている「SOS事業」も有効に活用されており、時間のかかる通院や入院中の生活支援等、家族が対応できない場合には顔なじみのヘルパーが有料で支援することで、入居者や家族の安心に繋がっている。	○	自宅への帰省や、気の合う仲間との外食を支援を考慮中であり、その実現が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが協力医院をかかりつけ医にしており、月2回の往診で健康管理を行っている。緊急時は休日や夜間でも往診してもらえ、看護師のアドバイス等も充実し、スタッフの安心に繋がっている。医師には生活状況や精神状態を伝え、療養についての指示を受けるなど連携が図られ、協力体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケア指針」が作成されており、本人・家族・医師との話し合い、家族の協力、ホームのケア内容と限界などについての方針が示されている。症状の進行に伴って話し合いを重ね、職員と検討し、尊厳あるターミナルを迎えられるよう支援していく方針である。	○	ターミナルケアの方針に基づいて、ホームとしての具体的な手順書やマニュアル化等の準備があると、より安定した職員の心構えに繋がると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に入居者の尊厳と権利の保障を掲げており、職員の意識づけが図られている。トイレや入浴などの介助場面での羞恥心に配慮した声かけや態度等は、身内の対応のような温かさが感じられた。おむつや尿取りパットの置き場所にも留意し、入居者の誇りを傷つけないよう配慮されていたが、面会簿やチェック表が目につく場所に置かれており気になった。	○	記入モレ防止や、家族への情報公開のためと思われるが、現在の記録物の置き場は、他の家族の目にも容易に触れることを考慮し、面会簿やチェック表の取り扱いは、家族の意向の確認や職員で話し合うことも必要と思われた。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のライフスタイルの継続を大切に、個々のペースに合わせた支援が行われている。朝寝坊の習慣がある人には、自然な目覚めを待つと共に、体調管理への配慮が行われ、食事も臨機応変に対応されていた。喫煙習慣のある人には、他の入居者の迷惑にならない場所にイスを用意し、さりげなく火の始末に気配りしながら、自由に喫煙できるようにしている。日向ぼっこをする人、ソファでテレビを見る人、入居者同士での歓談など、自然な生活が送られている様子が伺われた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの意思や力に応じて、調理や配膳、片づけ等を職員と一緒にしている。昼食時には、自分が作った料理を皆から「おいしい」と褒められ、嬉しそうな表情が見られた。テーブルの席次は、入居者の相性や、介助が必要な人には羞恥心に配慮して決められ、食事に集中できる環境としていた。職員は休憩時間に食事をしており、入居者の食事中は介助や見守りを行っていた。現在、注文の喜びが味わえるように、うどん・そば・トッピングを選べる機会が設けてあるが、今後、誕生日メニューなども取り入れたいと意欲的であった。	○	食べながらの介助等は失礼にあたるとの配慮から、入居者の食事中は介助に専念し、職員は休憩時間に食事をして、職員も入居者と共に食事を楽しむことができるよう、休憩時間の取り方や業務手順等の工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、入居者の希望に沿い入浴を楽しんでもらうよう支援している。家庭的な雰囲気のシステム・バスで、個浴の介助に適切な広さであり、気の合う人と一緒に入る際は「先に洗いなっせ、私は(湯船に)つかっとくけん」とコミュニケーションの場にもなっている。また、入居者同士で、入浴の順番を気遣う温かい関係が育まれている。冬季に着脱を嫌がる人には、浴室前の廊下にもヒーターを設置し温かくしたり、声かけを工夫して入浴を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片づけ、掃除、布団干しや洗濯物たたみなど、入居者のできる力を活かす場面が用意されている。職員も一緒に行いながらさりげなく支援し、自信を持ってもらえるよう配慮している。自分の役割と決意意欲的に茶碗を洗い、済んだ後はコーヒーとおしゃべりを楽しむ入居者の姿も見られた。裁縫が得意な人は雑巾縫いやボタン付けを行い、畑作りに活躍する人、中庭の草取りに精出す人、1人のんびりとたばこを楽しむ人もあり、日々の暮らしの中に自分の役割を見出し、楽しみを持っていることが感じられた。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブ、地域の行事への参加など、日常的に外出支援が行われている。徒歩で行けるスーパー等がないため、特に買い物の希望にはこまめに対応がなされている。近所の床屋はスタッフが送迎し、理容師さんとおしゃべりをし過ごすひとときは、入居者の充実感と気晴らしになっている。ドライブを希望する人が多く、天気や入居者の状態を見ながら、季節折々の花見や温泉地などに、頻繁にドライブに出かける他、職員が他の事業所に所用で出かける際に同行し、ドライブを楽しむことが日常化している。敬老会は法人全体の行事としており、入居者・家族、在宅の要介護者、地域住民にも参加を呼びかけ、ホテルで祝いの宴を実施している。入居者はお洒落して出席し、入居者を始め家族、地域住民の大きな楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や門扉の施錠はせず、出入り可能になっている。玄関や階段へ通じる間口にはセンサーがあるものの、中庭に面した窓からは自由に出入りができ、日光浴や畑作りができる。庭の扉も施錠しておらず、道路に出ることも可能な状態である。無断の外出による危険を回避するため、見守りと所在確認をこまめに行っており、センサー音がしたら全職員が注意を向け、確認する担当者が決められている。通りを独りで歩く入居者を見かけた場合はホームに連絡してもらおう等、地域の協力も得られている。		
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回は入居者参加で中庭への避難訓練を実施し、実際に避難が必要となった場合も、入居者の混乱をできるだけ少なくするよう図っている。職員は消火訓練を実施し、民生委員や老人会を通じて地域の協力を要請しており、職員の緊急連絡網の整備等体制も調べている。また、自動通報装置を設置し、消防署への円滑な連絡が可能となっている。	○	消防署や地域の協力を得た合同訓練や、夜間時・地震時の避難訓練、緊急連絡のシミュレーション等の必要性を痛感し、早急に取り組むことを検討中であり、その実施が期待される。また、頑丈な建物や中庭は地域の避難拠点になり得る存在と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はその都度チェック表に記録し、1日のトータル量の把握ができています。排泄状態の観察や定期的に体重測定を行い、総合的に栄養状態や脱水の有無を判断している。水分摂取が少ない人には、少量ずつでも頻回に飲水を勧め、間食には乳製品やココア・コーヒーなどを積極的に取り入れる等、カルシウムの摂取や脱水防止に努めている。調理師が立てる献立は、定期的に法人の栄養士のチェックを受けており、必要に応じて医師の指導のもとカロリーや塩分のコントロールを行うなど、健康管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住環境への意識が高く、建物全体がバリアフリーになっている。玄関前は緩やかなスロープ、建物内部には段差が無く、洗面台は車いす適用で、鏡は傾斜させて設置してある。掃除道具は見えないところに片付けられ、入居者の安全や混乱に配慮が見られる。食堂とリビングはワンフロアで広々としており、中庭に面した窓から柔らかな光が射し込み、明るく居心地の良い空間になっている。テレビの前のソファは入居者のくつろぎの場となっており、廊下やベランダ、中庭にイスやベンチが置かれ、のんびり過ごせる工夫も見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みを家族に積極的に働きかけており、居室には使い慣れた家具や家族写真、仏壇等が置かれていた。仏壇には毎朝ご飯と水が供えられ、入居者の心の拠り所となっている。ベットや布団への意向にも配慮し、自立度に応じた設えがうかがえた。入居者の症状によっては制限もあるとは思われるが、馴染みの物の持ち込みが少なく、荷物はクローゼットに収納され、やや寒々とした部屋が見受けられた。安全に配慮しつつ温かみを感じられるような工夫も必要と考える。	○	居室の換気は徹底されているが、(日中居室で過ごされる方は少ないかもしれないが)ふと部屋に帰ったときに心地よい室温への配慮も必要と思われる。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひまわり21長洲
(ユニット名)	1Fユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡長洲町633-5
記入者名 (管理者)	井上 佐由美
記入日	平成 20 年 2 月 10 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	法人の理念を基に事業所の特色が出せるようなより具体的な事業所理念(目標)を作りたいと考えている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	区長さんや民生委員さん等の協力を得ながら、ホームと地域の方々に主催できるような催しを行ったり、地域へ呼びかけ今以上にボランティアの慰問なども受け入れたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の中学生の職場体験実習や民生委員さんの施設訪問等も積極的に受け入れたり、地域の行事に参加することにより、認知症を地域の方々に幅広く理解していただけるよう努めている。又、『子供110番の家』の引き受けや介護保険外の相談も積極的に受けるよう努めている。	○	地位の行事等により積極的に参加するなどして事業所の存在をアピールすると共に、些細なことでも気軽に相談していただけるような地域の駆け込み寺的存在であり続けたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施することで職員は自己のケアの振り返りや確認が出来、又、改善すべき点については全職員で検討しケアの質の向上へ向け努力している。外部評価の結果は事業所内に掲示し職員及び多くの方々に目を通していただけるようにしている。	○	評価をやらなければならないという義務感ではなく、積極的に評価に取り組む姿勢作りを課題として、定例の勉強会等の内容に評価項目や内容の捉え方といったものを加え継続的に学習していきたいと考えている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での活動内容や現状を報告すると共に、認知症についての勉強会、又、入居者との関わりの中で互いに意見を出し合い、出た意見についてはケアに活かしている。地域との接点も増えつつある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所と市町村担当者との関係作りは出来ていると思えるが今以上に入居者が、また認知症の方々が安心して暮らせる町を作り上げていくためには認知症についての啓発を積極的に行うと共に町(行政)と行き来する機会を増やし連携を深めていかねばならないと思う。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在において権利擁護に関する制度については多くの職員が勉強不足であり、理解できていないと思われる。	○	今後勉強会に取り入れていき、十分な理解が出来るよう努力する必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体・言葉・薬等の拘束等は決してあってはならないと全職員が理解しており、また精神的な拘束についても継続的に研修を行うことで入居者の尊厳と権利を損なわない言動を心がけケアに当たっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の内容、重要事項説明書の内容及びホームでの生活、想定されるリスクについてなど出来るだけ詳しく説明し、理解・納得をしていただいた上で同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見、不満等はそのままの言葉で、また自身の意見を十分に言葉に出来られない方に対しては表情や行動からその方の思いを推察し個人記録へ残すようにしており、その都度ケアに反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状態、変化等については面会時、また急を要する場合には電話で随時報告を行っている。また、定期的に発行される機関紙による報告も行っている。	ご家族へ詳しい報告をすることは大切なことであるが、ご家族が聞きたい内容を聞きたいタイミングで報告するという伝え方にも配慮する必要があると思われる。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは常に対話を持つように心がけ実践している。ご家族からの意見・要望は記録に残し、職員間で情報を共有しケアや運営に反映している。また、直接職員に言えないような場合は家族会世話人や行政の窓口を利用させていただくようにという説明も行っている。	ご家族との信頼関係を構築することで何でも言い易い環境を作ると共に、ご家族の意見には迅速に対応する必要があると思われる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一方的な意見の押し付けではなく、常に前向きにより良いグループホームを作り上げていくための十分な話し合いを行うことでお互いが納得しあえる職場環境が整っている。	管理者は現場の職員と常日頃より十分な会話を持つことで職員の意見や気持ちを汲み取れるよう努力しなければならないと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に合わせた職員の配置、時間帯の調整に努めている。季節によっても違いをもたせている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り馴染みの関係を継続し、入居者に不安なく支援を受けていただけるよう努めているが、やむを得ない異動や離職に当たってはきちんと報告、紹介を行うことで入居者が受けるダメージが少しでも少なくなるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	グループホーム間における相互研修にも取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	事業所の枠を超え交流できる場(ビーチバレー)に積極的参加が出来るように働きかけていく予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に必要とされていることを把握し、見極めてアドバイスを行うと共にご本人・ご家族の意見・要望も取り入れながらご本人にとってより良いサービスの提供が出来るよう職員間でも十分な話し合いを持っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限りそれまでの生活を継続し安心感を得られるように居室内の環境作りや馴染みの物の持込などをご家族の協力を得ながら行っている。また、それまでの生活歴等の聞き取りについても十分に行い利用者本位のケアが出来るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が自身の持ちえる能力を最大限に発揮できるような場面・環境作りを心がけ実践している。入居者から教えていただいたり、不都合な部分は支援したりといった支えあう関係を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には入居者の状態報告を行うと共に、ご家族からの意見や要望の聞き取りをその都度行ったり、また行事等へもご家族の積極的参加を促すような働きかけを行い参加していただいたり、通院等においても協力をいただくなどしながらご家族と共に本人の生活を支え、情報を共有できるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族を含めた本人への支援であり、職員は本人と家族の相互理解のもとより良い関係作りが出来るよう情報の共有化のための橋渡しの存在としての支援を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があればその場所までのドライブや訪問、また本人にとって大切な方の来訪も歓迎している。出来る限り本人の希望をかなえながら自由に生活していただけるよう支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立やトラブルを未然に防げるよう職員は常に入居者の表情・言動等に配慮を要し支援していくよう心がけ実践している。もしもトラブル等起こった場合にもさりげなくその場の雰囲気を和ませ入居者同士の関係の修復に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などにより退居された場合にもお見舞いを兼ね利用者の様子伺いに出かけている。多くの場合、退院後も当ホームへの再入居を希望されるなど関係の継続性見られている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族との会話の中から希望・意向を引き出したり、又言葉でうまく表現できない入居者の場合は本人の表情や態度から希望や意向を推察し、そのことはその都度記録に残すと共に職員間で検討し利用者本位となるような支援を展開している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、また面会時にご家族から出来るだけ多くの情報を収集し、入居者のこれまでの暮らしの把握に努めると共に、これまでの暮らしを出来るだけ継続しその人らしさが失われないような支援に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録やチェック表への記入を確実に行うことにより入居者の日々の暮らし、現状把握を全職員に徹底している。課題点については職員間で検討しより良い生活支援が出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、現場職員、主治医、本人を良く知る関係者など本人を取り巻く様々な人の意見・要望をはじめ、その人の性格、身体状況、精神面の把握を十分に行いチームで検討し利用者本位のケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が安定されている方に対しては半年毎、及び状態に変化が生じた場合にはその都度アセスメントを行い常に現状に即したプランの作成（見直し）を行っている。介護計画は柔軟に変更すべきものと職員は理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケアプランに沿った内容をアセスメントしながら記入している。出勤時には必ず記録を確認し業務に就くことを徹底しており、情報の共有化に努めている。		個人記録は客観的側面からだけではなく実際に本人が発した言葉などを具体的に書き記すように指導している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設内だけにとどまらず利用者のために出来ることは何か？ということを中心に考えドライブやショッピング、また外泊支援等も行っている。他にショートステイを利用される方への支援も行っている。	○	本人の希望があればご家族と調整を取りながら自宅への一時帰省や気の合う仲間との外食などの支援も積極的に行っていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れは積極的に行っている。民生委員や区長、老人会会長を交えた運営推進会議の実施により地域資源と協働している。	○	警察(交番)、消防署へのより積極的な働きかけにより、当ホームをもっと理解していただけるよう努力したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族と一緒に介護タクシーを利用され外出されたりすることもある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネジャーより入居相談等を受けることもあり少しずつネットワーク作りも出来つつある。	○	次年度は運営推進会議のメンバーにも入っていただきアドバイス、意見など情報交換ができるようになれば良いと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を踏まえ入居者一人ひとりにかかりつけ医を確保しており、必要に応じて往診をしていただいたり相談をさせてもらったりしながら連携体制をとっている。医療面だけではなく生活面・精神面についての情報の共有化も図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医として脳神経外科の医師がいる。入居された方は1度は必ず受診し頭部CTを撮っていただき認知症の状態についての説明を受けると共に具体的な対応の仕方等の助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持つ職員を配置しており必要時には随時相談したり指示を仰ぎながら対応している。不在時でも24時間連絡できる体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医からの情報提供及びホームからもそれまでの生活状況の要約(サマリー)を提出することにより情報交換は随時行っている。また、入院期間中には馴染みの職員による見舞い等で元気づけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い終末期の看取り指針は作成しているが現段階では契約時の説明ではなく必要な時期が近づいてからの説明としている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	過去に見取りを行ったケースもあるが、改めて事業所の『出来ること・出来ないこと』をしっかりと見極め、かかりつけ医との十分な連携を確立していかなければならないと思う。	○	今後職員間でも見取りに向けての支援方法、心のあり方等の勉強会も行っていくべきだと思われる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関わるケア関係者間で本人の情報を詳しく収集・伝達することで情報の共有化を図り出来るだけ今までと同じような生活を継続できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にも掲げているように『入居者の尊厳と権利を損なう言動は行わない』ということをケアの基本理念におき職員間では徹底されている。	○	個人情報の保護については個人の処方箋やちよつとしたメモなどが無造作に扱われていないか職員間で再確認する必要があると思われる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者の状態、好みなどを把握した上で状況に応じたさりげない働きかけ(優しい親しみのある言葉かけ、態度、雰囲気など)を行うよう努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居者を尊重し、入居者のペースに合わせることを基本としている。業務を後回しにしても入居者の『今』が何よりも大切であるという気持ちを持って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム内で過ごす時、外出する時などTPOに合わせた、また入居者の現状に合った選択である様支援している。理美容については地域の理容店を多くの入居者が利用されており、理容店へ行くことを楽しみにされている方もいらっしゃる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、食器の準備、盛り付け、配膳・下膳、片付け等の場面において職員と会話等を楽しみながら協働している。食席についても入居者の状態や関係性に配慮し、ゆっくりと食事が出来るよう支援している。	○	入居者の好みを積極的に引き出せるように、誕生日メニューやセレクトメニューを取り入れたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ、漬物などの嗜好品や衣服なども好みに応じ個人購入されることを一緒に買物へ行くなどしながら支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を利用しながら一人ひとりの排泄パターン・状況を知り、各人に応じた時間帯・方法にて誘導するなどの支援を行っている。また、誘導時には回りにわからないようさりげない声かけ等を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴を希望される方、気の合う仲間との入浴を希望される方など入浴に対しての希望に出来る限り添えるよう支援しており入浴を楽しんでいただけるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心地よい入眠を促すために夕食後は職員の声のトーン、テレビの音量を下げる、照明をやや暗くするなどの配慮をしている。時には友達と一緒に眠られたり、テレビやラジオを視聴しながら眠られる方もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方と深く関わりを持つことはもちろん、ご家族とも話をしてその方の情報を得るように努めている。出来ることは役割として日々の生活の中に活かし、自信を持ちながら生活していただけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の力量に応じて支援をしている。能力があられる方についてはご家族の確認をいただき小額を本人に管理していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買物、地域の行事への参加、散歩、ドライブなど本人の希望・体調等に合わせながら気分転換が図れるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体行事として大型バスでの日帰り旅行、ホテルでの敬老会は定例化しており入居者はじめご家族、近隣の方も楽しみにしていただいている。また、自宅や自分の作品の展示会等へ職員や家族と出かけたりする機会を持たれている方もおられるが個人差は大きい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にピンク電話の設置もあるが職員からの働きかけも少なく利用される方は殆どいらっしゃらない。電話の取次ぎは随時行っている。	○	入居者の能力に応じ、電話やはがきの利用を促し家族とのコミュニケーション支援を行いたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時間の制限はなく、いつでも馴染みのある方の面会がある。状況に応じてフロアで過ごされたり、居室でゆっくり楽しく話をされ過ごされている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会でも取り上げ理解できるよう努めている。身体拘束のみならず言葉や薬による抑制においてもあるべきではなく常に意識し実践しており、機会あるごとに職員の意識に働きかけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	誰もが自由に入出入りできるよう夜間帯に玄関と外門を施錠する以外は鍵はかけていない。上記以外でやむを得ず施錠する際にはその旨を書き記した札を門扉にかけ来訪者や近隣の方の協力や理解を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で十分に連携をとりながら常に入居者の所在や状態を確認しながら入居者の安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の能力・状態に応じ、家族とも話し合った上ではさみ等持たれている方もいるが、定期的に所在を確認するなどして危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書も積極的に提出し、カンファレンス時に職員間で検討し全員の統一事項として事故防止に取り組んでいる。また、冊子や研修会などで知識の吸収も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急法の講習会に参加したり、伝達するための勉強会等は行っており緊急時への心構えは持っているが、実際の場面においてはどうなのか？と不安もある。	○	緊急時の対応について、実際に即して連絡先の確認やサマリーの書き方などシュミレーションしながら実際に身につくように指導していく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災についての訓練は実施しているものの地震や水害についての訓練は不徹底である。近所への働きかけは日頃より行っている。	○	消防署との合同訓練の必要性は非常に高いと思える。特に夜間時の非難や地震時の対応訓練等消防署と定期的に行えるよう早急に準備・計画をしたいと思う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にも起こりうるリスクについては説明しているが、その後は一人ひとりの身体・精神状況を把握し、リスクについてはその都度家族に説明し家族と共に対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・顔色・食欲・排泄状況など日々の状態を記録に残し普段の状態の十分な把握をすると共に、体調の変化、異変についても職員間で情報交換を行い共有化を図っており早めの対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が確認できるよう処方箋は個人ファイルにはさんでおり、医師の指示のもと確実な服薬の支援を行っている。本人の能力により方法は異なるが見守り・介助を含め吐き出し・こぼし等の無いよう注意をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳を主体とした水分補給や体操、腹部マッサージ、散歩などを積極的に行うと共に、排便チェック、おなかの張り、体調の良し悪しを確認するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の能力、口腔状態に応じ声かけ、介助により歯磨き、うがい、義歯の洗浄等を支援している。口腔内を清潔にすることで誤嚥等を生じさせないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎の摂取量(水分摂取も含む)に加え定期的な体重測定、排便回数(量)、排尿回数(量)及び顔色・表情などにより入居者のおおよその栄養摂取状況や健康状態の把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては入居者、職員共に概ね全員予防接種を実施している。感染症に対してはうがい・手洗い・ハイターの希釈液での清掃など現在出来る範囲での予防、対応はしている。	○	発症あった(可能性がある)場合には、医師や看護師に指導を受け対応しているが、指導内容をまとめたような手引書の作成が必要であると思われる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所での作業前は石鹸で丁寧に手を洗い、また調理用具も使用前には熱湯消毒し、ふきん・タオルなどもこまめにハイター消毒を行っている。食材については賞味期限を守り使い残しのないよう気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路からグループホームの表札、玄関も良く見え、門扉も開放されており、また駐車場も広くゆったりとした感じが安心感を与えていると思われる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間を有効に使いながらも安心感が得られ落ち着きくつろぎのある空間作りのため季節の草花やホッと心を和ませるように親しみのあるぬいぐるみを飾ったりしている。また、音楽を好まれる方が多いためBGMとしてCDをかけ常に柔らかな雰囲気を出せるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に面した日当たりの良い廊下や中庭にもベンチを置いたり、畳コーナーにも座椅子や座布団を置くなどしてひとりのんびりと過ごしたり、気の合う仲間同士で会話を楽しめるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力も得て入居者に馴染みのあるベッドやタンス、ご家族の写真、ぬいぐるみなどを配置することによりその人らしい居心地の良い環境の継続性に配慮した居室作りが出来ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアに設置している温湿度計を利用しながら換気及び冷暖房の調整を行っている。また、各居室には自然換気口の設置もあり体調に優しい配慮を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の要所要所に手すりを設置し、また流し台や浴槽のまたぎの高さ、洗面台やトイレの鏡の傾斜設置等は入居者の使い勝手が良いような工夫をし可能な限り安全且つ自立した生活が送れるよう配慮している。また、入居者に対して注意を呼びかけるような声かけ、促しも随時行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札やトイレの表示を行うことで入居者の混乱やトラブル回避に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や中庭へ続く通路は階段のほかスロープもあり車椅子利用の方も無理なく外へ出て行ける。また、ベランダの柵も入居者が自分で布団を干せるくらいの高さであり職員と協力しながら行うことが出来る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームでは『サービスの質』にこだわりをもち、理念に基づきケアを展開している。常に『自分だったら』『自分の親だったら』という思いで入居者主体のケアの実現を目標とし努力している。そのために職員はカンファレンスや勉強会に積極的に参加することはもちろん、皆、与えられるだけではなく常に自己研鑽に努め情報・知識・技術の吸収に惜しみなく努力している。経験等に幾分かの違いはあるものの人(入居者・家族・職員等)に対する思いを深く持ち、愛情に溢れた事業所であると思う。入居者が自分らしく、ゆっくりと穏やかな生活を送っていただくことが出来るように職員は常に意識を高く持ち、意思統一を図り前向きに頑張っている。入居者は日々の穏やかな生活のほかに春には大型バスを貸切り日帰り旅行を、また、秋にはホテルでの敬老会といつもとは違う装いに身を包み外出されご家族やご近所の方々と楽しいひと時を過ごされることも楽しみのひとつとされている。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひまわり21 長洲
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡長洲町
記入者名 (管理者)	泉 昌子
記入日	平成 20 年 2 月 11 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念4番目に地域の中で最期まで安心して暮らして頂ける様支援する事を掲げている		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時理念を唱和し各々が実践に向けての思いを発表しあっている		
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ユニット内に掲示し面会時の閲覧会話の中で理解頂ける様努めている地域の方にも会議、訪問時には理念の紹介をおこなっている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節の野菜を持参いただいたり畑仕事している方への挨拶等好意的にお付き合いができています。		
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事参加グループホームの行事参加区役等交流が図れる様努めている。通りすがりの方への挨拶には気がかけて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行事(季節の行事、旅行)等には地域の高齢者にも参加して頂いて交流の場を設けている。地域の一人暮らしの方への配食サービスを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価する事で現状を把握し質の向上に繋げる様努めると共に外部評価を重く受け止め各々が自己研鑽に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行っている内容説明、報告をし理解できておられない場合は説明を行っている。意見等は受け止めサービスの拡大に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの質の向上を取り組む為、あらゆる情報収集の必要を感じできるだけ機会を設ける様努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の時間でも参加できる研修には出席し知識を得勉強会を通じて共有しあっている。必要な方には活用いただく様おこなっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待もない様常に意識を持ち対応している。特に排泄時の声掛けには注意を払うようスタッフの意識を統一している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を十分理解される様説明すると共に個々の不安の確認を行い本氏家族が安心できられる様話合いの場をもっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の為の箱を設置いつでも言える場の提供は行っている。又直接言ってよい雰囲気が出来ていると思える。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調報告は即対応を行っている。又面会時に報告している。定期的には6ヶ月程の暮らしぶりを書面にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見等あられた場合全スタッフに浸透しての解決を行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会を通じ個々の意見提案を聞く機会を設けている。又随時ケアを良くする為の提案は現場の中に活かされていると思える。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	介護が必要な方の場合時間が要する為、時間の調整は行っている。排泄入浴の介助時の人員の確保は出来ていると思う。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々の理由で転職する、移動等あつてはいるが馴染みの管理者がいることで不安の軽減があつていると思える。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者には月に一回の責任者会議を設けている。又随時状況に応じ育成の場ができています。スタッフに対しても月に二回のカンファ時にて取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に月に一回参加しサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレスに対する対応の研修に参加したり、言いやすい環境作りに努めている。又言い合えるスタッフ間であたりと互いに了解しあっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	4月には今年の課題の提出苦手な課題を克服する為の提出3月には課題に対する反省を行いスタッフの意識向上を促している。	○ H19. 11月より、週1回の勉強会を設け意識の向上を図っている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	随時話し合いの場を作る様努めている。困っている時は解決法を導き出し、不安な場合安心される様精神的フォローは出来ていると思える。	○ 初期はコミュニケーションを蜜に取る事に依り、不安、困った事の把握に努めると共に互いを知ることに重点をおいている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の時点で家族の要望の聞き取りを行っている。会話を十分とり理解、納得される様対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時医療が必要な場合は他のサービス期間の紹介を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	コミュニケーションを図り信頼関係を築く様にしサービスに繋がっている。他の入居者との関わりについてはレクリエーション及び日々の暮らしのコミュニケーション等を通じ良い関係が出来る様見守り、介入している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	作業等(料理、掃除)を共に行う事により、個々の持つて居る思い、悩み喜びを知り、このことについて話し合う事ができ支えあう関係ができていると思う		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事参加ばかりではなく、日常生活の中でも家族と共に過ごされる時間を設けている。(花壇作り、野菜作り)等		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	よりコミュニケーションを図る事で信頼関係を深めると共に日常生活での情報をこまめに提供している。又家族の思いを情報集収しより良い関係を築いていると思える。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会時も又来ていただける様な環境作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時のテーブルの配置、居室の配置等に気を配っている。日々の生活の中で関わりをもち(レクリエーション、作業)より良い関係が保たれる様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	機関紙の発行行事参加の呼びかけを行い継続的な関わりをたもっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図る事で把握に努めている。現在意思疎通はほぼ出来ていると思える。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートにての生活暦又家族面会時の情報集取等により把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の日々の生活は違う中各々を把握する事で転倒予防の対策バイタル測定にて体調把握表情等にて精神面の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者がアセスメントを行い本氏及び家族の意向をプランの中に十分反映される様とりこんでいる。又必要な関係各位の情報等も生かしスタッフの意見も取り入れ利用者本位のプランになる様努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の考察し見直し(変更・中止等あり)を行っている。しかし急を要する場合短期プラン作成し、実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌に日々の様子を各自記録出勤時必ず目を通して勤務する様にしている。日誌を通して工夫すべき事は随時行う様にしプランの見直しに繁榮している。	○	記録もれがない様十分気を付けたい部分みられる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体機能に応じ事業所の多機能への変更等行っている。	○	状況に応じ多機能性を活かした支援の必要があると思える。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、各機関の協力を得ている。	○	文化、教育機関等の取り込みの幅を拡げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	許容範囲外の支援が、必要な方の場合Dr, ケアマネージャ等の意見交換の上、他サービス機関を利用することもある。	○	医療行為は範囲外の為、他サービス機関への移動等みられている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの関わりは、多くはないが時折、交流も図られている。	○	必要に応じて、支援センターとの協働に努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解の上担当医受診又往診等行っている。月に2回の往診又受診により適切な医療が行っていると思える。	○	利用者の言動、体調把握に努めDrには、状況提供する事に依り早めの対応、適切な医療がなされている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科にて、CT検査や現状報告し現症状に合った治療を受けておられると思われる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	些細な事でも報告相談を得ながら、日常の生活管理と医療の活用は行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、家族または病院関係者との情報は蜜に行い現状把握をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する家族の意向を伺い担当医等の相談の上スタッフ全員の方針はできていると思える。	○	家族の思い、方針を早めに聞き取り、担当医との情報交換の上、一つの方向性を持ち、支援している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームにて医療行為は出来ないため他サービス機関への移行や終末期に向けてのチームとしてのケアの準備心がけは出来ていると思える。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の十分な理解のため別の居所に移られる場合、口頭書面又はスタッフが時には訪問する等行っている。	○	身体機能低下の為、別の居所に移動された場合、家族の理解、関係者間の信頼関係が出来ている上での、ダメージ防止に努めた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けはさりげなく他者に気づかれない様な誘導等行っている。記録もスタッフ意外目に届かない様気づかっている。	○ アイコンタクト、ジェスチャー、ボディータッチ等、他利用者が気づかれない様、誘導、声のトーンにも配慮している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物希望の方が居れば同行する。散歩希望の方が居れば散歩し出来るだけ希望に添える様対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業を優先することなく、その方がゆっくり食される場合終わるまで見守る。入浴もゆっくりされる方の場合ペースを崩すことなく入浴して頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の洗面、整髪、髭剃り等行い身だしなみもルーズにならない様心がけている。理容、美容も本人の意向により定期的に行っている。地域の理容室をほぼ利用している。	○ 随時、利用者の要望に依り、予約し散髪頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体機能に応じて食事の準備、片付け、配膳、下膳スタッフと共にコミュニケーションを図りながら行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は要望に応じ購入し日常的に楽しんで頂いている。煙草、コーヒー、漬物、菓子等がある。	○ 個々のコーヒーを台所内に設置し、利用者は飲みたい時、自らセットし飲用されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄の訴え時は随時、又動き等を観察しながら行っている。	○	不快さを、長引かせない様努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自力で入浴される方は、ゆっくり好きなだけ入っておられる。支援する方の場合にはコミュニケーション等に気を配り楽しく入浴できる様心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の居室にて休みたい場合は誘導、歩行可能な方は好きな時居室に行き休まれている。スタッフ間では、20時以降テレビの音量、明るさに気をつけ、声掛けにもトーンを落とし安眠して頂ける様支援している。	○	居室内で、休まれる方、ソファーに横になり休まれる方、それぞれ安心して休まれる様支援している。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	“昔とった○○”で色々な役割をこなして頂いている。おやつ作り、針仕事、畑仕事等で楽しんで頂いている。	○	人の為になっているという思いが、張りとなっておられる利用者、ティッシュ巻き一つにしても、`出来る`という思いを大切に支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名の方はお金を持参されている。チリ紙の購入等自ら支払われる事がある。持参されない方の場合スタッフに購入依頼され嗜好品を求められている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を好まれる方は、随時対応出来ている。買い物されたい場合も同行にて出掛ける。	○	フロア内で過ごされる時間が多い為、出来るだけ、外出する様な声掛けをする様努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	紅葉見物、バス旅行、ホテルでの食事会、季節の地域の見所めぐりを行っている。	○	バス旅行、ホテルでの食事会は日常的に行う事でない為、後々まで心に残っている利用者が居る。心に残るイベントの提供も必要と思える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族よりの電話は、自ら話して頂く様している。又手紙を出される場合は、スタッフにて投函を行っている。	○	利用者の機能に依り、月1回でも家族に、`お便りの投函が出来れば`と思える。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	和やかに会話出来る様周囲の方に、気兼ねなく出来る様な雰囲気作りに努めている。	○	利用者の家族と他利用者が仲良く会話される姿をよく見受けられる。今後もグループホーム全体が一つの家族になって欲しいものである。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修を通して知りえた情報をスタッフ一同共有することで`言葉による拘束`等無いよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険を察知出来る様、防止の為のセンサーを設置しているが、入居者が自由に動かされて良い様に行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ビデオの設置をしている。所在確認(入居者の行動・把握)日中は常に視野に入る状態にて確認。夜間は1時間毎の巡視にて確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品関係は一律保管庫を設けているが、異食になる様な品に対しては出来るだけ目にふれない様心掛けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応としてマニュアルを作成している。勉強会にてスタッフがすぐ対応出来る様指導している。	○	日頃より、スタッフ間にて話し合いの場を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の指導を消防署より受け全てのスタッフにて実践している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	民生委員・老人会の方を運営推進会に参加頂き地域の協力を要請している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に起こり得るリスクを説明している。現場を見ておられる上で起こり得るであろうリスクを納得頂いてはいるが、起こらない様には努めている。	○	日頃より状況報告し信頼関係を結び、利用者が自由に動かれ、その人らしく生活頂ける様支援している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	血圧が高い方は4検する。常に入居者の表情、動き等の観察を行い早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬支援に努めると共に服薬変更時は特に症状の観察に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食材の使用を常とし、十分な水分補給を心掛けて各自出来る運動を行って頂く様努めている。又、担当医と相談の上、便コントロールも行っている。	○	ケアチェック表に記入し、利用者の排泄状況の把握に努め、早めの対応を行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎回の口腔内のケアは行っているが、拒否時の場合、水分を取って頂く様している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定にて、増減の確認を行い活動の多い方、少ない方をリストアップし食事提供時、スタッフにて加減を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手すり、台所内全てはハイター消毒にて、拭き上げる事になっている。	○	インフルエンザは全員の利用者が接種している。他の感染に対しては受診検査等にて早めの対応を心掛けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の使用時は限らず熱湯消毒。食材は賞味期限等に心掛け購入する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも入って頂ける様玄関は開放している。しかし入居者の安全の為17時以降は閉めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔を第一に考えている、また四季折々の花等置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共に語り合ったり、一人で煙草を吸ったり、テレビを見たり、思い思いに過ごして居られると思える。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を居室におかれ日々御参りされている利用者。日々居室内の模様替えをされる利用者がおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中は居室内の空気入れ替えの為、窓を開けている。湿度調整は濡れタオルを下げる等行っている。エアコン使用時は、温度差がない様気づけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットを使用し、自ら起き上がる。手すりを使用し掴まりながら移動。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、名前を貼る。(自室が分からない方の場合)トイレにもプレートを貼る		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	煙草を吸われる方に椅子を置く。中庭にわ、ベンチを置き会話と空気を楽しまれる様セッティング。又、畑にて野菜作りが出来る場所設けている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「関わりは治療である」という姿勢のもと、各々が人間性の向上を図る事でよりよい支援が出来ると思える。私達は利用者より学ばせて頂いているという感謝の気持ちを忘れず